

有機てん茶 海外へ

静岡県藤枝市
葉つピイ向島園

輸出向け工場完成

【静岡・大井川】葉つピイ向島園株式会社は30日、輸出向け有機てん茶工場を藤枝市に完成させた。地域の生産者から生葉を集め、主に抹茶原料となる輸出向け有機てん茶を製造する。2017年産の一番茶から稼働。島田市の杉本製茶に契約販売してから、米国へ輸出する。

新工場は、鉄骨造り平屋建てで延べ床面積は817平方メートル。新鮮な空気を取り入れるよう下窓を取り付けたり、ほこりがたまらないよう全て内張りにしたりなど異物混入対策を徹底した。

また、レンガ炉から新てん茶機械を導入し、従来の3分の2程度の燃料で茶を製造することができる。煎茶機械も新しくし、生葉の乾燥度合いに

新設したモダンな外観の、輸出向け有機てん茶工場を紹介する向島代表取締役（30日、静岡県藤枝市で）



よって水分値が高ければ熱量を加えたりと自動制御することができる。

同日行った竣工（しゅんこう）式には生産者や

J A大井川、行政関係者ら87人が参加。J Aの池谷薰組合長は「先頭を走る若者が将来を見失わないよう、J Aも茶の販売などで手を取り合って頑張っていく」と話した。

同社の向島和詞代表取

締役は「茶商から依頼が

が始まり、J Aや県、市町、企業などの多くの思いやりがあつて工場が完成した。生産農家と茶商を仲介し、地域の茶業再興へ貢献したい」と話した。

J Aは2015年秋、

藤枝有機茶生産拡大研究会を発足した。向島園の畑に出向いて栽培方法を研究し、1年かけて有機栽培マニュアルを作成した。同社へ提供される生

葉全体をレベルアップするためだ。

同社は今後、新たに加入する生葉の生産農家に有機栽培マニュアルによる指導を進めていく。